

# 編集後記

## 編集長(ダン シロウ)

■また一つ、新連載が始まった。私自身が病児保育に関わっていたことはないが、「病児保育問題」を世の中がどのように扱うのかは、とても関心があった。そして、大石仁美さんが京都で病児保育所を開設する時期に、微力ながらサポーターとして関わることになった。あれからもう10年の時が経ったのか。

相変わらず、待機ゼロが目標だとか、女性労働力の活用だとか、昔ながらの話を景気の動向にあわせて都合良く語る世間は同じだ。

でも、世の中が変わろうと、変わるまいと、その間に実践の日々は過ぎる。現実も変化するし、それを取り巻く認識も変わる。答えが出てからではなく、実践力のある人が現実を作る。そこからしか変化が起きることはない。

荒木晃子さんは不妊治療領域で、タイトルも新たな新連載になる。岡田隆介さんと脇野千恵さんの連載終了は、共に働いていた場所から一区切りする時期を迎えられてのことだ。又、新たな連載を考えてもらえると嬉しい。

■季刊は早い。編集を完了して、事務局の川原さんにWeb上にアップして貰ったら直ぐ次の号のことが浮上する。

大谷編集員、千葉編集員は若いので、今が仕事の時なのだろう、本来業務外の仕事も厭わずよく働く。とても意欲的だ。そしてそれが報われるような世の中の流れの渦中に見えるのは幸せだ。

■短信に書いたが編集直前までロンドン視察と前後の出張で10日間、仕事場を留守にした。そのせいで、編集、その他の作業が慌ただしい。そしてこの後もまた直ぐニューヨーク行きが控えている。とにかく出来ることを着実に前倒して済ませていくしかない。webアップされたものを最初に見るのは、NYでのiphone1になる。

■私にとっての新年度4月は、京都でのマンガ

展「木陰の物語」から始まる。

## 団士郎の世界 ◆木陰の物語展◆

2014/4/4(fri)~4/18(fri)  
am9:30~pm6:30

TAMARIBA

北沢路地町 個人美術館/ギャラリー

トークライブ 4/12(sat) 15:00~16:30



2014年は一年を通じて、あちこちでパネルマンガ展が出来ることになっている。お近くで開催されているときに、是非一度ご覧下さい。

## 編集員(チバ アキオ)

対人援助学会 第11回(通算35回)研究会が2014年2月28日(金)にキャンパスプラザ京都で行われ、多くの方にご参加いただきました。CON(こん)カウンセリングオフィス中島 代表中島弘美先生をお招きして、「グループの力を借りて問題解決をする体験! リフレクティング・チームをやってみましょう」をテーマに進めていただきました。

「このチーム体験は、4つのおいしさがあります。1.複数の人の力を借りて問題解決する方法を知る、2.言葉かけや質問の仕方のトレーニングになる、3.事例検討の方法に触れられる、4.クライアント体験ができる」と案内をしてくださっていましたが、まさにその通りでした。「もっとやりたかった」「第2弾をして欲しい」「もっとはなしたかった」「これはありがたい経験だ」などなどの声が聞こえ、みなさんが充実した時間を持つことができたことをうれしく思います。先生のされたりリフレクティング・チームは先生が現場で実際に用いる中でより成果をもたらすことができるように工夫がされているのもこれらの声につながったのではないかと思います。

当日は遠方の方、対人援助職の方、一般企業の方とバラエティに富んだ参加者の方々が2時間を共にいたしました。参加されている方々とこれからもつながり、それが援助職を豊かにし、そして社会に還元できることを願っております。次回は5月です。おたのしみに!

編集員(オオタニタカシ)

今号では、対談「教育と福祉の連携を模索する」のまとめを担当しました。普段のマガジン執筆では一人で自分の考えをまとめる作業をするわけですが、実際に人と出会い、生でお話が聞ける機会はまた別の面白さがありました。3時間に及ぶ対談のテープおこしをして文章を整えていく作業は正直骨が折れましたが、その時とは違う気づきもありこれも面白い体験でした。これに懲りずにまた企画していきたいと思えます。自身の連載も7回目を数え、そろそろ普段の持ちネタは底を尽き、自分の中から絞り出す作業になってきました。遥か長く連載されている皆様に尊敬の念を持ちつつ、次号も頑張ろうと思つたのでした。

### ■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は  
[danufufu@osk.3web.ne.jp](mailto:danufufu@osk.3web.ne.jp)

### マガジン編集部

604-0933 京都市中京区山本町438  
ランプラス二条御幸町402 仕事場D・A・N

## 対人援助学マガジン

### 通巻16号

第四巻 第四号

2014年3月15日発行

<http://humanservices.jp/>

第十七号は2014年6月15日  
発刊の予定です。

原稿締切2014年5月25日!

新規連載者を募っています。編集部まで  
執筆企画をお知らせ下さい。

## 対人援助学会事務局

〒603-5877 京都市北区等持院北町56-1  
立命館大学大学院応用人間科学研究科内  
TEL:075-465-8375 FAX:075-465-8364

## 対人援助学会事務担当

### 入会・退会・変更届

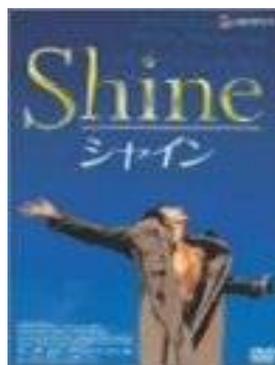
〒540-0021 大阪府中央区大手通2-4-1  
リファレンス内  
TEL/FAX 学会専用:06-6910-0103

## 表紙の言葉

映画「シャイン」からの着想のイラストである。観た当時、とても印象的だった気がするのに、あまり覚えていない。

時間と共に忘却の彼方になる映画と、いつまでもよく覚えている映画がある。その映画を誰かと語る機会があるかどうかとも関係していると思うが、「シャイン」は私の記憶があやふやだ。私の側に何か理由があるのだろうか。

もしかしたら、何であろうと記憶の彼方に遠ざかってゆく時期に入ったのかもしれないな。そんな映画だったのかなあ。



2014/3/10